

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600495		
法人名	医療法人社団玄洋会		
事業所名	グループホーム あすなる		
所在地	苫小牧市樽前237番地1 (電話) 0144-67-8881		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】 (19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 1月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤 人, 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	53,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	3 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 83.3 歳	最低 67 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道央佐藤病院、日翔病院、篠島皮ふ科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、精神医療、高齢社会の福祉を基幹とする 総合病院を本部として老人保健施設、特別養護老人施設、デイサービスなど総合医療機関の一部として運営されており、同法人内にはほかに2つのグループホームを有しております。立地的には市街地からも離れ、かつ地域住民が少ないなど地域との交流面で難しさがありますが、法人及びこのホームでは積極的に地域の人たちとの交流拡大に努めております。町内会の行事参加、小学校行事参加交流、また、野球場設置により地域の人たちを引き入れての交流も大きな意義を持つものと思慮いたします。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で課題となった、活動意欲の触発物品、各ユニットごとの情報の共有、ホーム内の清掃、ヒヤリハットの改善、相談苦情の記録簿などについて、果敢な取り組みにより大きな改善が見られました。浴槽の手摺りの増設に加え、トイレの手摺り増設も今後の検討と取り組みを期待するものです。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の作成時にはスタッフの参加は認められますが、諸課題に対するスタッフの取り組みは十分といえません。自己評価及び外部評価で提示された取り組むべき目標を十分咀嚼しながら、改善に向けた具体的な行動を期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>これまでの会議では、ホームの概要紹介、現状及び諸行事の報告などが行なわれてきましたが、最近の会議では課題への取り組みや地域との接点拡大の意見が出されるなど、内容に幅が出てきております。今後は自己評価と外部評価で示された課題への取り組みを議題として、メンバーの意見交換、またモニター役を担ってもらうなど、ホーム運営に参画してもらうよう期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見、苦情、要望などは訪問時の会話の中から聞き取ることが大切であり、従来は口頭での記録がされない状態でしたが、改善への取り組みにより記録簿が整備されております。家族からの些細な意見も大切な情報であることを認識し、スタッフ間で共有しながらホームの運営に反映されるよう期待します。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの位置する条件下では地域との連携に難しい面がありますが、町内会、学校などへの積極的なアプローチにより、地域との連携の幅ができてつつあります。法人病院では、敷地内に設置した野球場を開放するなど、外部の人たちを引き込んだお付き合いが展開されており、それら交流は利用者にとっても生活に潤いをもたらすものと期待します。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームが有する地理的条件により、従来は地域との接触があまり多くはありませんでしたが、最近ではホーム側の積極的な働き掛けにより、地域密着の理念に添ったサービスの広がりを見せております。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日常的なミーティングや月1回の定例会議で理念の再確認をスタッフと一緒に進め、共有を図っています。また、各スタッフは理念カードを携帯して日々の実践に反映するよう努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺住民が少ない条件のもとにも係わらず地域との交流は成果をあげつつあります。地域の小学校運動会に招かれ、参加しながら地域の人たちとの交流、また町内会役員さんたちがホーム訪問してくれ、ホームへの理解を一層高めています。	○	現在、町内の老人会との交流も計画されており、利用者が少しでも地域でのお付き合いの幅が広がることを目標として努められるよう期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に関して、各スタッフに気づきなどを記入してもらい取りまとめられていますが、自己評価及び外部評価で表現された問題など、具体的な取り組みについてスタッフへの浸透が十分といえません。	○	自己評価の作成時にはスタッフも参加しており、今後は取り組むべき目標が設定された諸問題に対しても、全てのスタッフが参加し、より良いホーム作りを期待します。

苫小牧市 グループホーム あすなる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度の開催ですが、ホーム側の取り組みの要点説明、また各出席者からの意見など適切に記録されています。家族の方、町内会の代表など、ホーム事業への理解や意見交換の良い機会となりつつあります。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	従来、市との連携機会を模索するなどしていましたが、表面化された連携には至っておりません。	○	市が進める「認知症へのサポーター養成」に関して、管理者自らキャラバンメートとして豊富な経験を駆使しての協力、支援が予定されており、これからの市との連携強化により、サービスの質の向上が大いに期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしの様子を家族に伝えるため、2ヵ月に1回のペースで「おたより」をスタッフが作成、送付しており、利用者の写真を沢山掲載するなど、家族から好評を得ています。金銭の管理及び家族への報告は法人本部で行なうなど、現場での事務負担の軽減がされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の外部評価で、家族が訪問の際、口頭での意見、要望について記載するよう指摘がされていましたが、管理者とスタッフは理解し実行しており、家族意見等をホーム運営に反映していることを評価したいと思います。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの定着化が進み、スタッフの異動は極少数となっています。ホームでは特に利用者とのなじみを大切に考え支援に努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの研修受講機会が以前より増加するなど、改善への取り組みが認められますが、管理者は更に研修の機会確保など、スタッフのスキルアップを計画しています。	○	管理者は、各スタッフの経験を加味しながら、認知症ケア専門士への育成など、より高度なスキル向上への取り組みの計画がされており、これからの成果を期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道内のグループホーム協議会や地区の連絡会などの研修会には、管理者だけでなくスタッフも参加させて、交流活動を通じたサービスの質の向上を目指しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人グループ内のデイケア利用者がホームに入居の場合は、同一敷地内でもありスタッフも幾度か接触の機会があるなどスムーズな入居となっています。また、デイケア以外の場合でも、家族及び入居予定者には必ずホームにきて頂きホーム内を見学するなど、入居時の混乱をできるだけ軽減し馴染めるよう気配りをしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、常に暮らしをともにする家族の関係作りを心がけ、敬いの気持ちで接するようにしています。また、利用者からは経験豊かな生活の知恵を教わるなど、ともに支えあう関係作りに努めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、利用者の思いや意向を知るため、顔の表情を細やかに観察して、利用者本位のケアができるよう気配りをしています。そのため、生活（暮らし）のアセスメントシートの行動・状態・訴えの記載欄は具体的な利用者の表情や文言などが記入されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議では、アセスメント、モニタリング、カンファレンスなどを踏まえて介護計画についての話し合いがもたれています。また各ユニットごとに看護職員を配置して利用者の状況把握が適切に行なわれ、場合によっては本部病院の医師や作業療法士の指導を得ながら利用者本位のケアができるよう計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常の場合は、家族とも相談しながら6ヵ月をスパンとして介護計画の見直しがされています。利用者の状況変化の場合は適切な介護できるよう随時の見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の負担軽減を図るため、本部病院との医療連携体制を活かしての早期退院の支援、医療処置を受けながらホーム生活の継続などが行われているほか、通院や送迎、特殊な買物支援など柔軟な対応がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本部病院との医療連携体制ができており、掛り付け医による定期健康診断の受診、通院、服薬など、日常的な健康管理が行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに関しては家族とよく相談が行なわれおり、終末期における方針を理解してもらいながら同意書を得ています。またスタッフ全員がこれら方針を承知しながら支援に努めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	スタッフは、本人を気遣いながら、さり気なく言葉掛けや対応に配慮しています。また、接遇研修も行なわれ、記録にもイニシャルを用いるなど、プライバシーの徹底化をに努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の決まりを優先することなく、あくまでも利用者本位でゆったりとした暮らしができるよう支援しています。		

苫小牧市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スペースが十分にある食堂、またオープンキッチンのサイドテーブルなど、利用者が好みの場所でゆったりと食事をしています。スタッフは利用者のそばで同じ食事を取りながらさり気なくサポートが行なわれています。配膳、下膳などできる仕事は進んでいました。ただ、スタッフの優しい言葉掛けなど楽しい会話がもう少し欲しいと感じました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの浴室には天然温泉が直接引かれており、心地よい入浴の提供がされています。従来、週に2回の入浴パターンを週3回の入浴を目標にして実践がされ、時間の制限があるものの、夕食後の入浴も可能としています。入浴に際しては、スタッフの介助がありますが、浴槽近くの手摺り増設も是非検討を期待します。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スタッフは、利用者のライフヒストリーを十分に把握しながら張り合いや喜びを導きだす気配りをして支援しています。食事準備の手伝い、ゴミ出し、花壇の作業、書道、読書など、利用者の生活歴を尊重しつつ支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季間を除くシーズンには散歩が日常的に行なわれ、利用者の大きな楽しみとなっています。また、買物やイベント参加など外出支援も行なわれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフルームからは両ユニットの玄関が見ることができ配置で、センサーにより人の出入りも知ることができます。玄関のみ夜間の施錠がありますが、昼間は全てで施錠することなく開放感のあるホームとなっています。		

苫小牧市 グループホーム あすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、法人病院関連の諸施設総合の火がかりの防災訓練が行なわれています。また、ホーム独自の火災避難訓練をしながらマニュアルの再確認が行なわれています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取は「暮らしのアセスメントシート」で細やかに記載されています。また、食事のカロリー管理は、本部病院の管理栄養士の指導を得ながら、利用者の状態に適した栄養バランスが配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング兼食堂の天井は吹き抜け構造で、自然光のとり入れ、遮蔽など工夫されています。また掘りごたつ式の畳の間や広いトイレなど居心地の良さを追求した共用空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	インターシュノールを配した居室には、利用者の使い慣れた家具や用品が持ち込まれ、安心感の漂う生活空間となっています。家族の写真、自ら作った作品の数々が壁を彩っています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。